



URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体的全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

福島県郡山市で開催した「YMC A屋内キッズプログラム」(113面参照)



若き可能性を世界に広げて



公益財団法人東京YMCA
評議員会会長
勝田 正佳

者の力で
本、世界では大切なことと
応援します。

赤 V 三角

「よいしょ！
よいしょ！」
かけ声が響き
渡る。餅つき
コーナーに熱
気がこもる。
「いらっしや
いませ」「あ
りがなひゅう



Dr. Y. Nakamura is a middle-aged man with short dark hair and glasses, wearing a dark suit, white shirt, and patterned tie. He is smiling slightly and standing in front of a brick wall.

公益財団法人東京YMCA
総主事・代表理事
廣田 光司

支え合う世界を若者の力で

本 世界では大切なこと
 になっていきます。その
 ことを実現するY M C A
 でありたいと思います。
 奪い合いの世界ではなく
 分かち合う・支え合う世
 界をユース自身が作って
 いくこと、未来をつくる

います」優しい声がバザーコーナーに飛び交う。これらの声の主は、江東区の幼稚園や小学校の先生である。私が校長として勤めた学校の教職員に声をかけて集まった仲間である。東京YMCA東陽町センターのクリスマスオープンハウス（11月30日）の主旨を説明し賛同

若者が活躍するY M C Aに



学校法人東京YMC A学院
理事長
徳久 俊彦

ーチしていきたいと思
います。今年も会員の皆様
と共に神様に喜ばれる活
動を続けてまいります。
よろしくお願いします。

でした。

ただ、もっと、もっとと
Y M C A を抱いリードし
て行く人材が出る可能性
を持っています。

若い人達がどんどん活
躍する年となるよう、切
に念願して、新年のご挨拶
といたします。

外に飛び出し多くの方々と結びついたことの証明でもある▼ボランティアとして参加してくれた仲間間は30名を越える。この輪がさらに広がっていくことを願っている。(会

日本YMCA大会に参加して

会員部 さいかわ みつお 箕川 光郎

「BEYOND（ビヨンド）～越えてゆこう、出会うために」をテーマにした第18回日本YMCA大会に参加した。日本全国のYMCAから300人を超す会員が集まり、今までやってきたこと、これからやろうとするYMCA運動について熱く語る機会を得ることができた。

特別講演でブランディングについての話を聞いたが、私は今まで広報、ロゴ、スローガンなどのことかと思っていたが、皆で何をしたいのか絞りこんでYMCA運動を一人一人が推進して行くこと、つまり、ブランディングとは名詞ではなく実践する動詞であることを学んだ。都市により、地域によって果たすべき役割がいろいろとあるが、個別YMCAの枠を越えて（BEYOND）協力し合って運動を進めたいと再確認した。日本YMCA大会は2年毎に、また世界YMCA大会は4年毎に行われるので、今自分の所属するYMCAにとどまらずに是非、BEYONDして自分の枠を越えた活動を展開して行きたいと思う。

この大会プログラムには、希望によりキャンプソングナイトが加えられた。各YMCAで歌われているキャンプソングを持ち寄り共に歌い、交流を図った。これからもキャンプソングの会の活動を展開して行きます。

日本YMCA大会に3000人参加 “YMCAの宝”を磨き、越えていこう

11月22～24日、御殿場 ティアも派遣している。の東山荘で「第18回日本YMCA大会」が開催され、全国の会員など304人が参加した。テーマは「BEYOND（ビヨンド）～越えてゆこう、出会うために」。今回は30歳以下の参加者が全体の36%を占め、若い活気に満ちた大会となった。

初日に大会実行委員長の中道基夫氏（神戸YMCA理事長）は「YMCAは幼稚園、保育園から老人ホーム、専門学校、スポーツクラブ、キャンプ場などいろいろな施設を運営している。さらに地域の問題から国際問題まで幅広く取り組み、寄付や募金を集め、ボランティア

基調講演は株式会社電通の特命顧問の白土（しらつち）謙二氏による「ブランディングの力と後ローカルYMCAによる15の先駆的プログラムの事例発表があり、各員の興味に応じて自由に参加できた。

2日目は聖日礼拝から始まった。大会を通じて礼拝コーディネーターは

午後3人のゲストによる選択式ワークショップ「この指とまれ」。それが「この宝を使ってYMCAが内外のさまざまな壁を乗り越えて（ビヨンド＝Beyond）、世界の平和のために力を合わせよう」と力強く語られた。

大会3日間を通じて随

◆YMCAの宝とは◆

所て有志がキャンプソングを歌ってくれたことも見逃せない。会場で、食堂で、ロビーで、廊下で、いたるところで参加者同士の楽しい笑い声や賑やかな会話がいつも聞こえてくる温かい大会となった。

以下は、大会期間中、参加者から出された「YMCAの宝」（抜粋）である。これをご覧になり、読者の皆様を感じる「YMCAの宝」を是非ご紹介いただきたい。投稿先は、日本YMCA大会実行委員を務めた東京YMCA本部事務局長・菅谷淳宛か、以下のメールアドレスで今年2月末まで受け付けている。a-orig@tokyoymc.org

（本部事務局長 菅谷 淳）

神のシナリオ

書籍紹介

「YMCA活性化入門」

坂口順治／久保誠治 共著



日本YMCA同盟発行
／A5版114頁／申込は
日本YMCA同盟tel.
03-5367-6640／1部
1,000円（送料・税込）

坂口順治氏（以下梓参照）と熊本YMCA副総主事・久保誠治氏が、西日本YMCAで行ってきた職員研修をリーダーや委員にも伝えたいと願ってまとめたものである。第1部は「変わらないYMCAの理念が、社会

の先駆的な活動を創り出すことを提案する。

第2部は「明日のリーダーは今日つくられる」と題し、久保氏が執筆。YMCAのユース・ワークやグループ・ワークについてその基本や特徴を分かりやすく解説している。また対人関係能力に役立つゲームも14例ほど紹介されており、即実践することができる。

なお、この本の売上はすべて、YMCA主事の聖地研修費用として寄付される。

子育てコラム



家庭・地域・園の三者で育む

しのもめYMCAこども園は、東京YMCAがはじめて運営する「認定こども園」として、2011年4月に開所しました。この認定こども園は、保育園機能と幼稚園機能を併せ持った施設で、保護者の就労の有無に関わらず、幼稚園の教

育を受けることができ、園児たちにとって、心地よい居場所になっていることを実感します。

第一子のお子さんを持つ保護者は多くおり、その保護者にとつて日々の子育ては毎日新しい体験です。これで良いのだろうか、良く解らない、そんな不安や悩みをたくさん抱えている。誰かに寄り添い「そうですね」「大変ですね」そんな言葉を交わすだけで、不安や悩みが解消されることが多々あります。園内で先生たちが笑顔で、保護者と会話している姿を見ると嬉しさと安心を感じます。

お母さんやお父さんが他の保護者や先生と、園で奉仕

が園児たちにとって、心地よい居場所になっていることを実感します。

第一子のお子さんを持つ保護者は多くおり、その保護者にとつて日々の子育ては毎日新しい体験です。これで良いのだろうか、良く解らない、そんな不安や悩みをたくさん抱えている。誰かに寄り添い「そうですね」「大変ですね」そんな言葉を交わすだけで、不安や悩みが解消されることが多々あります。園内で先生たちが笑顔で、保護者と会話している姿を見ると嬉しさと安心を感じます。

お母さんやお父さんが他の保護者や先生と、園で奉仕

堀江 和広
（しのもめYMCAこども園 園長）

東京YMCA名誉会員

YMCAの人 坂口 順治さん（82歳）



敗戦直後、中学2年生のときにYMCAと出会った。奈良県の自宅近くにあった教会で信徒が、「教会YMCA」と名付けた体験学習の機会を与えてくれたのである。男女中高生が平等に議論し、共に祈り、キャンプや病院訪問、合唱などさまざまな活動を体験した。この、戦時中の教育とはまったく違う、YMCAの全人格的教育を体験したことは、その後の人生に大きな影響をもたらした。高校ではYMCAのサークルを作り、大学でも学生YMCAで活動した。

1960年前後にアメリカに留学して心理学を学ぶ。中でも「グループ・ダイナミクス」を専攻し、人と人との力動的な関係」を研究した。対人関係の中でこそ人は変化し、成長していくというこの理論は、上意下達のリーダーシップが中心だった当時の日本にはない、ヨコのつながりから生まれる民主的な力でもあった。帰国後は立教大学で教鞭をとり、これを日本に紹介した。また、日本YMCA同盟の研究所など各地のYMCAでも、永きにわたり研修の講師を務める。東京YMCAでは常議員や山手プランチ委員長も担い、果嶋のとげぬき地蔵尊にある「とげぬき生活館」では50年にわたって人生相談のボランティアをしている。

80年代には「生涯教育学会」を、また90年代には「国際ボランティア学会」を立ち上げた。ボランティアを学問として位置

付けたことには、当初反対も多かったが、YMCAでの原体験などから、ボランティアは、他者に奉仕することによって双方が成長していく学習（「サービスラーニング」）と主張した。ちょうど文科省が「生きる力」をうたい始めた時期であり、中学校学習指導要領（道徳編）の解説を書いたり、旧労働省の「婦人少年問題審議会」の少年部会長ほか各種委員を務めるなど、行政でも貢献した。

若い頃、牧師になるよう勧められたことがあった。しかし、教会の中での個人的な救済ではなく、社会の中で人と交わりながら、神の恵みの仲介役となる「触媒」としての道を選んだ。「地の塩」「世の光」として生きる。その信条はまさに、YMCAの使命と一致するものである。

（聞き手・文川広報室）

アジア太平洋Y M C A同盟 主事研修

香港中華Y M C Aの施設で、アジア・アフリカの研修生と撮影。後列右から3番目が星野さん



アジア・アフリカの仲間と学ぶ

野外教育センター 星野 太郎

11月3日～28日の26日間、香港中華Y M C Aの施設を会場にしたY M C A主事研修「アドバンススタディ」に参加した。この研修はアジア・太平洋Y M C A同盟 (APAY : Asia & Pacific Alliance of YMCAs) の主催であるが、毎年広く世界中のY M C Aから参加者があり、今年で32回目となる歴史あるプログラムである。今回の参加者は、インド、カンボジア、香港、フィリピン、セネガル、スリランカ、台湾、日本からの計11名。その内5名は総主事であった。日本からは横浜、せとうち (旧：岡山)、そして東京からの3名であった。

この研修はアドバンスという名の通り、中堅主事を対象にその養成を目的としている。研修内容は、アジア太平洋地域にある市民社会の課題をよりグローバルな視点で認識すること。また、Y M C Aのミッションに基づく運動がその課題にどのように向き合い進められるべきかを学ぶ合うことであった。素晴らしい講師陣に恵まれ、「Y M C Aミッションと神学」「社会の課題分析と地球市民教育」「リソースモビリゼーション (財的・人的な資源獲得)」など有意義な講義とワークショップに多くの学びを得た。

また、アジア・アフリカの仲間と共に学ぶことで気付かされたことも多い。彼らのY M C Aの多くが取り組む貧困、子どもの教育、女性の人権などの問題、これらに私たちの社会は無関係ではないこと。私たちの活動すべてによりグローバルな視点と地球市民的な価値観を加えていく必要性を感じた。

そして、私たちY M C Aの働きを持続可能なものとしていくために、リソースモビリゼーションをどう行っていくかについての学びは非常に有意義であった。それは自分のY M C Aを人々にどう表すのかという問いでもあった。「自分自身がなぜY M C Aを愛しているのか」「なぜY M C Aは必要なのか」、それらを人々の心に触れる言葉で語れるようになること——。そんな宿題をいただいた。

貴重な学びと交わりの26日間、送り出してくれた東京Y M C Aへの感謝をこれからの働きで表していきたい。

東京ーN Y フロストバレー便り

2014年6月8日、元フロストバレーY M C A理事長のフェン・プットマン氏 (享年80歳) が天に召された。フェンさんは1972年から理事となり、1999年から2013年まで理事長としてフロストバレーの発展に寄与された。2002年、フロストバレーは総主事が不在となる困難な時期を迎えたが、次期総主事が決定するまでの10ヶ月間、フェンさんは毎週のようにフロストバレーに滞在して支えてくださった。同時に新総主事を決定する委員会を牽引し、その年ジェリー・ハンコスキー総主事を迎えることになった。

フェンさんはハンコスキー総主事と共にフロストバレーをさらに発展させていった。ミッションやプログラムの見直し、新ロッジの建設、予算規模も年々大きくなっていく。またスタッフの住居を新しくするなど、フェンさんの温かいサポートを通して、大きな家族のような組織になっていった。

毎夏サマーキャンプの初日には必ずキャンプ場を訪れ、子どもたちや保護者を出迎えた。少し緊張した子どもたちの姿や、再会を喜んで抱き合う姿に胸を熱く

したという。毎年行なわれるスタッフ感謝パーティーでも、スタッフやその家族一人ひとりに温かいメッセージを掛けてくれた。

忘れてならないのは東京ーフロストバレーY M C Aパートナーシップを力強くサポートしてくれたことだ。2010年には東京Y M C Aを訪問され、その後日本の職員2名を、フロストバレー並びにロッキーY M C Aで行なわれたカンファレンスに招待して下さった。

フロストバレーY M C Aに入るとまずウェルカムセンターという建物がある。フェンさんの想いを込め、これを「フェンプットマンウェルカムセンター」と命名することになった。玄関を入るとフェンさんの優しい笑顔がいつも出迎えてくれる。

(在フロストバレーY M C A

星住 秀一)



↑消毒綿の容器にビー玉などを入れて作った「マラカス」。自作の楽器で奏でる歌は格別でした。



来ロビーでのクリスマス祝会。キャンプに参加したビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社の社員やY M C Aのボランティアたちと共にキャンプのDVDを鑑賞し、また、キャンプ中に作った「くぐくぐクリスマス」の歌を演奏しました。今年もまた、ブルガリホテルズ&リゾーツ・東京レストランのご協力によりケータリングが振舞われ、笑顔がたえないクリスマス会となりました。協賛くださったビザ・ワールドワイド・ジャパンほか多くの方々のご支援により、このくぐくぐプログラム

→餅つきをして下さった近隣小学校等の先生方



地域から多数の協力

東陽町オープンハウス

東陽町センター恒例のクリスマスオープンハウス (実行委員長・大沼謙一氏) が12月23日に開催されました。今年もバザー、模擬店、子ども遊び場、災害体験、小学生の絵画展、抽選会のほか、子どもクラス発表会や交流試合など、全館をあげてのイベントで、天候にも恵まれ、大勢の来場者で賑わいました。

開催にあたり、多数の方々に協力をいただきました。東陽2丁目町会、深川消防署、深川消防団、スターツCAM (株)、江東区東陽地区少年団体連合会、近隣小学校の先生方、子どもクラスの保護者方々など。多くの方のご厚志とさわやかな笑顔によって、今年も無事に開催できましたことに感謝します。収益金は約70万円。国際協力募金や震災復興支援のために大切に用いさせていただきます。(広報室)

東日本大震災復興支援プログラム

福島で 子どもクリスマス会

「第6回Y M C A屋内子どもプログラム わいわいキッズ・クリスマス会」が12月20日、郡山ザベリオ学園を会場に開催

され、総勢110名が参加しました。今回はクリスマス特別バージョンとして、日本キリスト教団が主催に加わり、また (株)

ヨークベニマル社が協賛くださいました。第一部の礼拝では、日本キリスト教団磐城 (いわき) 教会の上竹裕子牧師から「あなたのクリスマス」と題してメッセージをい

ました。保護者コーナーではト

たきました。礼拝の後はお楽しみタイム。ゲーム、パラボールン、ボール遊び、クラフトなどで大盛り上がりでした。Y M C Aのリフレッシュキヤンプ等に参加経験のある子どもも多く、ボランティアリーダーたちと再会を喜び合う姿が見られました。

「くぐくぐクリスマス」

聖路加国際病院・形成外科の松井瑞子医師の協力による「くぐくぐプログラム」が12月13日、クリスマス会を開催。夏のキャンプに参加した仲間約60名が集まりました。第一部は、院内のトイ

サートが行われ、ピアノ、サクソフ、ヴァイオリンによりクリスマスソングなどが演奏されました。子ども達もタンバリンや鈴などで一緒に演奏する時間もあり、楽しく過ごしました。第二部は、形成外科外来ロビーでのクリスマス祝会。キャンプに参加したビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社の社員やY M C Aのボランティアたちと共にキャンプのDVDを鑑賞し、また、キャンプ中に作った「くぐくぐクリスマス」の歌を演奏しました。今年もまた、ブルガリホテルズ&リゾーツ・東京レストランのご協力によりケータリングが振舞われ、笑顔がたえないクリスマス会となりました。協賛くださったビザ・ワールドワイド・ジャパンほか多くの方々のご支援により、このくぐくぐプログラム

「くぐくぐソング」を皆で歌いました。このキャンプソングは、Y M C Aのリーダーと聖路加の看護師が作曲し、子どもたちがキャンプでの体験を歌詞したオリジナル曲です。完成したばかりの曲を、医療器具で作った楽器などで奏でながら歌うことができました。

ラムを開催できましたことを感謝いたします。これからも、子どもたちにも、皆さまと協力しながら継続していきたいと思

います。(ディレクター 佐藤信也)